

## ブドウ「シャインマスカット」における

### 着粒安定のための CPPU 処理方法

みんなで進めよう  
茨城農業改革

農業総合センター園芸研究所

「シャインマスカット」は無種子化・果粒肥大促進を目的に GA（ジベレリン）を2回処理します。処理1回目のみ、CPPU（ホルクロルフエニユロン）2ppmを加用すると、果実品質への影響も少なく、着粒率70%以上となり着粒が安定します。

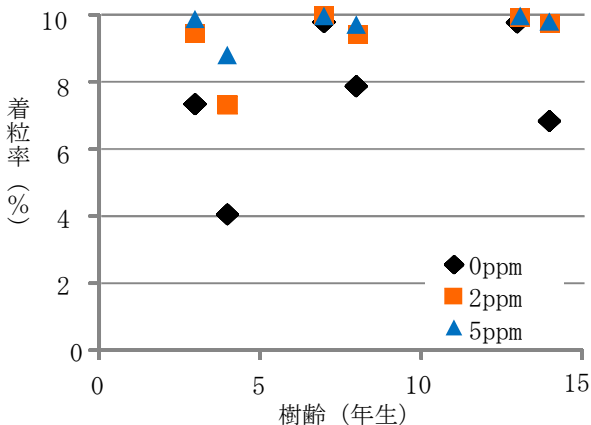
#### CPPU の使用方法により果実品質や食味に影響が生じます

CPPU は使用方法により、果皮の硬さ、内部空洞の大きさ、果形の変化など果実品質に及ぼす影響が異なります。

GA 処理1回目に CPPU 2ppm 加用すると影響が少なく、無加用と同程度の果実品質が得られます。

表1 「シャインマスカット」の CPPU 使用方法と果実品質評価

CPPU 使用方法 GA1 回目・GA2 回目	着粒安定効果 (○:良好 ×:不良)	果皮の硬さ (○:硬くない ×:硬い)	内部空洞の大きさ (○:小さい ×:大きい)	果形の変化 (○:楕円 ×:扁円)
0ppm・0ppm(無加用)	×~△	○	○	○
2ppm・0ppm	○	○	○	△
5ppm・0ppm	○	△	×	×
0ppm・5ppm	×~△	△	×	△
0ppm・10ppm	×~△	×	×	△
2ppm・5ppm	○	×	×	×
2ppm・10ppm	○	×	×	×



#### 着粒率を高めるため GA 処理1回目に CPPU を 2ppm 加用します

着粒率70%以上であれば1房当たりの目標粒数を確保できます(データ略)。とくに樹齢が4~5年の若木では着粒率が70%を下回ることが多いので、GA処理1回目のCPPU加用が効果的です(図1)。

CPPU 2ppm 加用で着粒率が5ppmと変わらず70%以上となり、内部空洞の大きさや果形の変化の少ない良好な果実品質が得られます(表1)。

#### 「シャインマスカット」における植物成長調整剤の使用例

満開予定日の14日前~開花始期にストレプトマイシン200ppmを散布すると、GA処理のみより無種子化率が高まります。

満開時~満開3日後に無種子化のためGA25ppmを花房浸漬処理(1回目)し、その際着粒安定のためCPPU2ppmを加用します。また、満開10~15日後に果粒肥大のためGA25ppmのみ果房浸漬処理(2回目)します。

表2 「シャインマスカット」の植物成長調整剤使用例

生育ステージ	満開予定日の14日前~開花始期	満開時~満開3日後	満開10~15日後
植調剤 処理濃度 処理方法	ストレプトマイシン 200ppm 散布	GA25ppm 花房浸漬 (1回目) + CPPU2ppm 加用	GA25ppm 果房浸漬 (2回目)